# 21［評論］　『善と悪』

　あらゆる事実が記された客観的な記述に接したとき、「ここに書かれている○○した人物とは、あなたなの？」と問われたとき、「そいつは、私だ」、あるいは「私ではない」と応じうる。そのように応じうるということが、まさに、「私」という語の意味・用法を習得している、ということである。

　相手の言う「そこ」は、私にとっての「ここ」であり、あなたが「あなた」と言って呼びかけてくるａアテサキが、「私」である。縮めて言えば、あなたにとってのあなたが、私である。これが、「私」という語の意味の核である。「私」という一人称のｂガイネンを運用して、自分について考え・語りうるようになっているからには、誰でも①このことは習得している。「私」「あなた」という語・ガイネンの、この相互性の自覚と承認なしには、人-間は、存在しえない。

　人-間である、すなわち人の間にあるかぎり、各人は、そのつど他者に対して-なにものかとして-ある。少し堅い言葉で言えば、こうなる。②人-間であるというときの各自の存在は、存在しているかぎり、どこまで行っても対他存在なのである。自己意識がどんなにｃセンエイで孤独であろうとも、そもそも自己が対他存在である以上、単独者としての自己意識もまた、他者によって-意識されて-ある-ということの意識、を離れては成立しえない。

　［　　Ａ　　］、あくまで自分を「お互いに」という相互性の圏外に置こうとすることは、現に人-間でありながら、しかし人-間の条件を否定しよう、というに等しい。自己特権化とは、〝自己が成立し存続するための条件を否定していながら、なお自己である〟という特権を、ひとり自分にだけ・自分ひとりで与えようとするｄ徒な試みなのである。

　〝善し悪しは、その人しだい〟というは、〝ものごとの善し悪しの基準は、事実として多様である〟という意味でなら、その通りである。しかし、この台詞によって、ひとり自分を「お互いさま」という相互性の圏外に置こうとするのであれば、それは、そのつど互いに〝③相手に対して-何ものかとして-ある〟という、人-間の条件を否定する自己特権化に他ならない。

　［　　Ｂ　　］、そのように自己を特権化させながらも、なおつつがなく生きている人がいたとすれば、それは、その人に対して［　　　　　Ｃ　　　　　］である。二歳児が、幼児期に特有の全能感そのままに振る舞うとき、両親も、じじ・ばばも〝この児は、まだ自分だけが特別だと思っているのだから〟と考えて、なだめたり・すかしたりする。

　しかしながら、呼びかけ・応じてくれる人々の「おかげ」だということは、なにも幼児のように自己を特権化する人にのみ特有なことではない。そもそも私たちは、同じタイプの悲劇が起きたとしても、被害者が自分あるいは近親者であるときと、遠い世界の住人である場合には、その悲劇への反応は、ｅイチジルしく異なる。

　このように私たちの体験が、自己-中心的に構造化されているかぎり、私たちは、みな自己特権化への傾きを抱え込んでいる。〝かくかくという点で、自分だけは特別なのだから、あなたたちの間で通用していることは、この自分には当てはまらない〟という論法で、自分を特別扱いしたくなる、という点では、程度の差こそあれ、私たちはみな同じ穴のむじなである。

●語注

人-間＝「人と人の間を生きている人間」という意味の、筆者独自の表記。

◆漢字　本文中の二重傍線部ａ〜ｅのカタカナを漢字に直し、漢字は読みを平仮名で記せ。

ａ〔　　　　　〕　ｂ〔　　　　　〕　ｃ〔　　　　　〕　ｄ〔　　　　　〕　ｅ〔　　　　　〕

問１　傍線部①の指す内容として最も適当なものを次から選べ。7点

ア　事実が記された客観的な記述

イ　「私ではない」と応じること

ウ　あなたにとってのあなたが、私であるということ

エ　「私」という一人称のガイネンの運用

オ　自分について考え・語りうるようになっていること

〔　　　〕

問２　傍線部②とあるが、これはどういうことか。三五字以内で説明せよ。9点

〔　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　〕

問３　空欄Ａ・Ｂに入る最も適当な語句を次から選べ。6点×2

ア　たとえ　　　イ　もし　　　ウ　むしろ　　エ　なぜなら　　オ　したがって

Ａ〔　　　〕　Ｂ〔　　　〕

問４　傍線部③と同じ内容の語句を一〇字以内で抜き出せ。7点

〔　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　〕

問５　空欄Ｃに入る語句を本文中から二〇字以内で抜き出し、最初と最後の五字で答えよ。7点

〔　　　　　　　　　　〕〜〔　　　　　　　　　　〕

問６　波線部「自己特権化」とあるが、この説明として適当なものを二つ選べ。8点

ア　自己特権化は、自己存在の条件を否定することにつながる無駄な行為である。

イ　「お互いさま」という相互性の圏外に身を置くことで、自己を特権化しなくてもすむ。

ウ　全能感を有している完璧な人間ならば、自己を特権化してしまうこともやむを得ない。

エ　本人や近親者など身近な存在の出来事の場合のみは、自己特権化は当然のことである。

オ　誰もが自己特権化に傾きがちなのだからこそ、全体に適用される法律や教育が必要だ。

カ　自己の体験が自己中心である以上、誰もが〝自分は特別だ〟と特権化しがちである。

〔　　　〕〔　　　〕

【解答】

漢字　ａ宛先　ｂ概念　ｃ先鋭　ｄいたずら　ｅ著（しく）

問１　ウ

問２　自己存在は、他者によって認識されることではじめて成立するということ。（34字）

　　　（傍線部の内容がなければ×）

問３　Ａ＝オ　Ｂ＝イ

問４　相互性の自覚と承認（９字）

問５　呼びかけ・〜「おかげ」（19字）

問６　ア・カ

■覚えておきたい語句

□6　核………………………物事や現象の中心となるもの。

□6　概念……………………物事の概括的な意味内容。

□7　相互（性）……………………お互い。

□17　徒（いたずら）………役に立たないこと。無益。

□23　全能（感）……………………あらゆることができること。

□32　同じ穴のむじな………（一見、別に見えても）実は同類であること。

〔要　約〕

［1］・［2］段落　導入部

［3］〜［5］段落　本論１

［6］〜［8］段落　本論２

《段落相互の関係をつかみ、柱の段落の［2］・［3］・［5］・［8］段落をつなぎ合わせる》

　　　　↓

自己の存在は、他者の自覚と承認で成立する対他存在であり、その相互性の圏内を離れては成立しえない。しかし、自己の体験が自己中心的であるかぎり、「自分だけが特別」という自己特権化への傾きを抱え込んでいる。（100字）

〈筆者＆出典〉大庭　健（おおば・たけし）一九四六年（昭和21）埼玉県生まれ。専攻は倫理学、分析哲学。専修大学文学部教授。著書に、『所有という神話─市場経済の倫理学』『「責任」ってなに？』『いま、働くということ』などがある。本文は、『善と悪─倫理学への招待』（岩波新書、二〇〇六年）より。第二章「善し悪しは、その人しだい」の一節。

【読みのセオリー】

★一文の中の「骨組み」を強く意識しよう

　傍線部を含んだ一文をみると、その傍線部の正しい見方が浮かび上がることがある。その文の中で主語なのか、述語なのか、修飾語なのか、独立語なのか…。

　これを意識するだけで違う見方ができる。たとえば修飾語であった場合、何を修飾しているのかによって、共通事項を導くことも、異なるカテゴリーとしてグループ分けすることもできたりする。意識してみよう。

■読みのセオリー［実践］一文の中の「骨組み」を強く意識しよう

問４　傍線部③「相手に対して-何ものかとして-ある」は修飾語である。一文の中から、何を修飾しているか探そう。

［　　　　　　　　　　　　　］

　よって、　↓

「［　　　　　　　　　　　　］が存在する・成立するためには何が必要か」という観点で、本文中を探そう。すると、傍線部③の後にはこの表現は見られないので、前にさかのぼって探していこう。

（空欄には同じ言葉が入る。）

〔解答〕　人-間の条件

☆「セオラム補充問題」　問題は、次の３種類があります。

　　＊差し替え　　　……該当の問と差し替えるもの

　　＊追加　　　　　……同じ問で、追加された問題

　　＊新問　　　　　……追加可能な新たな問題

＊差し替え

問１　傍線部①「このこと」の指示するより具体的な内容を、本文中の語句を用いて二五字以内で答えよ。

　［答］　あなたにとってのあなたが、私であるということ。（23字）

＊差し替え

問３　空欄Ａ・Ｂに入る語句として適当なものを次から選び、記号で答えよ。（Ａは同じ「したがって」、Ｂ19行目「しかし」）

（ア）たとえ　（イ）しかし　（ウ）また　（エ）なぜなら　（オ）したがって

　［答］Ａオ　　Ｂイ

＊差し替え

問６　32行目「私たちはみな同じ穴のむじなである」とあるが、なぜそういえるのか、四○字以上五○字以内で説明せよ。

　［答］　自己の体験が自己中心である以上、誰もが「自分は特別だ」と特権化しがちであるから。（40字）

　　　　　自己の体験が自己中心的であるかぎり、「自分だけは特別」という自己特権化への傾きを抱え込んでいるから。（50字）